

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104617		
法人名	有限会社東雲		
事業所名	有限会社東雲 グループホームつつじが丘しのため		
所在地	長崎市つつじが丘4-15-1		
自己評価作成日	令和 4年10月25日	評価結果市町村受理日	令和5年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

皆さんが笑顔で過ごせる雰囲気づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は職員間のチームワークが良く、理念にある「人権と歩まれた人生の尊重、家庭的な雰囲気の中で安心して楽しい生活ができるような介護サービスの提供」を実践している。管理者は、夜勤者の負担軽減を希望する職員の声を反映し業務改善に取り組んでおり、職員にとって働きやすい職場環境であることがわかる。ケアプランについては、職員全員による追加や改善点の抽出を行っており、ケアプランの充実とともに職員の意見が反映される仕組みが確認できる。職員は夕食以外は手作りの食事を心掛け、夕食はやむなく宅配を利用しているが、家庭で食べるような献立と雰囲気づくりに力を入れている。コロナ禍での制限が多い中、職員は利用者の散歩をはじめ外部との触れ合いを大切にしている。職員の笑顔を絶やさず優しさに満ちた支援体制が、利用者の安心と笑顔につながっている心温まる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を唱和し理念を共有しています。入居者に寄り添うところで実践に努めています。	毎朝の申し送り時に、職員間で日中の仕事の確認に加え、理念の唱和を行っている。人権擁護の観点では理念にある「利用者の人権と歩まれた人生の尊重」を基本に同性介護を心掛け、「家庭的な雰囲気」の中で手作りの食事に力を入れる等、理念の具現化に努める姿勢が見てとれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ごみステーションの掃除、散歩中の挨拶、会話、災害時の近所の方の受け入れをとうし交流している。	町内会は当番などの負担があるため事業所としては加入していないものの、職員によるごみステーションの清掃は継続している。また、民生委員から地域の情報収集も行っている。散歩時の挨拶で地域の人との交流もある。台風時に近所の独居女性を一晩受け入れた事例がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があれば答えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かすよう努めている。	コロナ禍のため対面による会議は行っていない。活動報告とともに、地域包括支援センターや民生委員からの質問と対応策を記した運営推進会議録を作成し、家族に送付している。ただし、議事録に日付や参加者等の記載がなく、家族からの意見聴取も確認できない。	会議録には、日付や参加者を記すことで後日振り返りの時に役立つと考えられる。検討、取組みに期待したい。また、行政、自治会だけでなく、家族代表に意見を求める工夫も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことがあれば質問している。	申請更新や加算の算定方法など不明な点は、行政担当課に問い合わせ、回答を得ている。これまでに困難事例について、包括支援センターにサポートを得ている。管理者研修や基礎研修等、職員数名がオンラインで受講しており、行政との協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修をともし身体拘束を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については事業所で内部研修を行い、職員が理解を深めている。特に、事例の検討に力を入れている。介護中の言葉による拘束にも注意を払い、言葉遣いで利用者を傷つけることが無いよう職員同士で互いに注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修をとおり虐待を理解し、身体拘束をしなケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者はいないので活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があれば職員に伝え反映できるように努めている。	職員の支援によって利用者が落ち着いて生活していることに家族は安堵し、入居当初に比べ連絡の間が空く家族も多い。そのため、管理者が衣服が必要であることを電話で伝え、足を運ぶようになった例がある。また、遠方から訪れる家族は、駐車場でビニールカーテン越しに面会しており、家族は、管理者と会話し様子を把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	共に働き、直接意見を聞いている。	月に1回職員会議を開いており、出席出来なかった職員には議事録を回覧して情報を共有している。事業所では、職員が自身の目標を設定しており、管理者は、目標を把握し達成を目指してサポートしている。また、夜勤者の負担軽減を希望する声をもとにシフト変更を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	調理が主な仕事とする職員を採用し、負担が軽減し業務の効率、水準が大きく向上した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部研修受講の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2事業所から情報提供を受けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を職員に伝え、入居後のコミュニケーションで関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを尊重することにより関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のパイプ役になっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状やりとりの支援、写真を送るなどして関係が途切れないよう支援をしている。	コロナ禍であっても状況をみながら家族と面会できるよう工夫している。コロナ禍前は、面会は多かったが、現在は面会が難しい時期でもあり、毎月家族に送る請求書に行事の写真と同封して喜ばれている。編み物が得意な利用者には編み物ができるように支援しており、馴染みの人や場所などの関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つのテーブル集まってもらい歌をうたったり、ゲームをしたりして孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談に応じたり、一周忌にはご仏前に花を送り、近所でご家族に会えば近況を報告したりします。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情、行動などから変化を把握して職員から利用者に話しかけ要望を聞き、家族にも伝え要望に答えるように努めている。	職員は散歩や入浴時など利用者と1対1になる機会に、本人の意向、希望を聞き取っている。買物の希望は、コロナ禍であるため状況を見ながら出掛けている他、家族へ電話したいという希望には応えている。事業所では特に夜勤者が利用者を出すサインを読み取って支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族に本人の歴史、入所後は本人との会話をとおり生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の状態、変化、過ごし方を把握し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にモニタリングシートに気づきを記入してもらい話し合いに活かしている。	利用開始時には1ヶ月の暫定ケアプランを作成し、1ヶ月経過後に本プランを作成しており、1ヶ月後及び6ヶ月後に見直しを行っている。ケアプランの変更時は変更内容を職員が理解できるよう貼り出し、全職員が意見を述べる機会を設けており、前回の評価結果の気づきを改善している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出勤者で気づきや結果を記録し情報を共有し会議計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できることできないことがあると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の美容院を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力施設機関に主治医を変えてもらう、看護師、主治医、家族と連携をとり適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の内科受診時は原則として家族が同行しており、家族不在時や緊急時は看護師が対応している。緊急時は救急車の要請を原則としており、緊急時の判断が困難な場合は協力医に連絡し、協力医から直接救急車を要請する等、連携が確認できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護師と連絡が取れる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナのため面会して本人の様子を確認することはできないが、相手の看護師、相談員と連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、家族、主治医、看護師が話し合っている。	重度化した場合の対応は、入居時に重要事項説明書を用いて利用者と家族に説明している。必要に応じ看護師と協力医が相談し、家族が協力医から説明を受ける体制があり、次の施設決定が困難な場合は協力医の判断を仰ぐ等、協力医との連携を確保しており、家族の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故時の対応研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に訓練を行っている。	避難訓練時はベランダへの誘導や人形を毛布で包んでの避難等、毎月重点項目を決めて実施している。夜間の訓練は年2回行い、担当職員以外の全職員が立ち会っている。マニュアルでは、転倒防止対策や窓が割れた際の対応策を加える等、改善している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた声かけをし、居室に入る時はノックをするよう心掛けている。	利用者を人生の先輩として、苗字にさん付けで呼び、本人のこれまでの人生を聞き取る機会を工夫して把握し支援に繋げている。本人の身なりや整容を保ち、清潔に快適な生活を過ごせるよう支援している。職員は入社時に守秘義務の誓約書を提出しており、個人情報の文書は所定の場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日いちにちを大切に希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示できない利用者には職員から働きかけ服を選んでもらったり、髪を整えてもらう。服のほつれや大きさなど気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の希望を聞き、後片付けを職員と一緒にやっている。	朝食、昼食は職員が調理しており、夕食のみ外注を利用している。誕生日には本人が希望するメニューを提供し、正月は盛り鉢や仕出しを取り、屠蘇や雑煮で祝っている。季節の花見では花見弁当を作って季節を感じるできるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量がすくない利用者には、食材の形態を変えたり工夫をして支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできない利用者には、介助し、しない方には声かけをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握し、その人に合ったパッドを使用してもらっている。	現在はリハビリパンツを使用している利用者がほとんどであるが、職員は利用者それぞれのチェックシートを確認しながら定期的に声掛けしトイレに誘導している。夜間はポータブルトイレを使用する利用者も多く、通常は朝から洗浄しているが、場合によっては排泄後に洗浄し清潔を保持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、運動、必要に応じて、下剤を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて曜日を変更することはある。	夏は週3回、冬は週2回を基本に入浴を支援している。冬場に限らず夏場でも手足が冷える時には足湯を提供している。入浴拒否には時間をずらし工夫して声掛けしている他、体調不良の時は清拭で対応している。本人の好みの湯温や同性介助の希望にも応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度で昼寝、それ以外でも居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師からの説明があるが、分からない時は自ら看護師に確認するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナや職員の高齢化のため以前のように遠出はできなくなったがホーム内のできる範囲で気分転換等の支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのため特別の場合を除いて出来ません。	事業所ではコロナ感染予防対策として、外出時はマスク着用を決めており、利用者が着用して外出している。散歩を好む利用者が多いため、職員は入浴日以外の午後には、1対1での散歩を支援しており、利用者は外気浴を楽しんでいる。車椅子の利用者も同様に外出する機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	電話代として100円くれる利用者がいた。断るのも失礼になるので預かり後日ご家族にお返しした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状のやりとりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花を飾り、庭にはチューリップ、ひまわりを植えて、日差しの強い日は、ブラインドで調整している。	リビングは明るく、利用者が制作した季節の絵を飾り、日めくりカレンダーを利用者がめくっている。料理の音や匂いも心地よく、テレビで懐かしい映画や歌番組を鑑賞したり、レクリエーションを楽しむ等、思い思いに穏やかに過ごしている。共用部のトイレや浴室は清潔・無臭で、職員による清掃が行き届いていることが確認できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のフロアでは、席の配置に気を配り、昼夜逆転しない範囲で居室でくつろいでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	遺影、仏壇、使い慣れたいすなどを持ってきていただいている。	居室はテレビや仏壇、時計、衣装ケース等、利用者が使い慣れている家具や調度品を持ち込み、趣味の作品や家族の写真等を思いのまま飾り、安心してくつろげる空間となっている。インターホンでいつでも職員と連絡を取ることができ、職員が毎朝掃除機とモップ掛けしており、清潔で安全・安心な環境を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力でベッドから立ち上がりができるよう高さを調整する。		